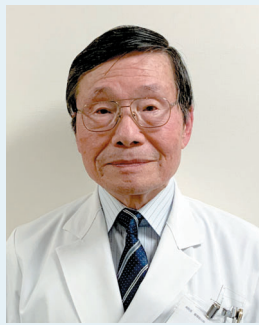


人の尊厳を大切に 暖かい医療を実践 地域のニーズに合わせて医療形態は変遷

医療法人 育和会 育和会記念病院 （大阪市生野区） 院長 **吉村 隆喜**



昭和57（1982）年に開設された育和会記念病院は、現在生野区を中心とした大阪南東部における地域密着型の病院として地域医療に貢献しています。平成19（2007）年からは基幹型臨床研修病院として医学教育にも注力、次世代を担う医師を多く輩出されています。令和6（2024）年より院長を務めておられる吉村院長にお話を伺いました。

—— 吉村院長のご専門は何ですか。育和会記念病院の経緯なども教えてください。

私の専門は循環器内科です。大阪市立大学（現・大阪公立大学）医学部を卒業した当時は第一内科と言われていました。私が当院の院長になったのは昨年4月です。当院は昭和57（1982）年に育和会記念病院として開設されましたが、当時は100床程度

のがん専門病院でした。平成5（1993）年に近隣の病院と合併吸収して合計約300床になりましたが、ユーティリティ整備のために265床に減らして現在に至ります。約30年が経ち、その間に診療科の増加、日本医療機能評価機構の機能評価認定病院の取得、初期臨床研修病院の指定、電子カルテやiPhoneによるモバイル電子カルテの導入、DPC対象病院など種々の変革を実施してきました。

当初は急性期病院でしたが、10年経過した頃にケアミックスの病院になりました。47床を初めは地域包括ケア病棟に、昨年から回復期リハ病棟にしています。ですから現在は急性期としては全265床中218床です。生野区には中小病院が多く、公的病院がありません。今でも200床以上の病院は当院だけです。

特徴的な地域の特性 高齢者医療への対応が重要

近年、人口減少に歯止めがからず、後期高齢者の増加に伴う人口構成の変化（特に生野区は大阪市内で最も人口密度が高

く最も高齢化が進んでいる区です）により、医療形態の変更が必須です。2024年6月からの国の医療政策の変更は、医科にとっても先生方にとっても非常に厳しいものでした。加えて働き方改革が医師にも適応され、我々病院勤務医師にとって、より厳しい環境となっています。しかし地域医療としては、より良い医療環境の維持が求められています。

急性期病院として、2・5次救急とも言ふべき、主に高齢者に対する救急が当院の役割です。老人施設から搬送されてこられる方が年々増えています。高齢者の受け入れは地域の要請ですから断ることはできません。

大阪公立大学病院が近く、在院日数の長い患者さんを送つてこられることも多いです。当院の54人の常勤医師のうち3分の2が大阪公立大学の出身です。

また、前期臨床研修医の基幹型病院として毎年3名の研修医を受け入れ、さらに大阪公立大学病院の協力型病院として研修医を受け入れています。また大阪公立大学医学部、近畿大学医学部医学生生の医学実習のカリキュラムにも参加し、医学教育に力を入れています。

—— 介護施設も設置されているそうですね。

平成9（1997）年に開設された「育和会介護老人保健施設ひまわり（100床）」は、育和会記念病院、居宅介護支援センター、訪問看護ステーションとともに、医療法人育和会が運営している施設です。4つの施設は密に連携し、利用者様の具合が悪くなつたり緊急を要する場合は、速やかに育和会記念病院で24時間対応しています。大阪公立大学の学生はこの介護施設でも実習を行っています。非常に良い経験になると思います。

—— 診療科目の中では何科が最も患者さんが多いですか。

内科各科、泌尿器科などのニースは多いのですが、とりわけ整形外科です。近隣の高齢者施設などで転倒されたりする方が多いです。高齢者は合併症が多いので、なかなか単科病院では診ることができません。月間で約50件以上の手術症例があります。人工関節センターでは、手術支援ロボット「Mako（メイコー）」を用いた人工股関節全置換術・人工膝関節置換術などを実施しています。

地域医療は全体医療に 各病院施設が 役割分担して連携を

これからは単独の病院ではやっていけません。病院群を1つの医療圏と考えて、各病院が役割を明確にして分担してやっていこうという話も出ています。生野区、東大阪市の西側、平野区、東成区の一部辺りで大阪市東部医療圏になると思います。病院群として連携していけば単科病院もそれぞれの特長を活かしていくことができます。地域住民が地域内に残れるようではなくてはいけない。特に高齢者は自分の住んでいるところに残りたいと考えるでしょう。どうすればいいのか、医療なのか介護なのか難しいところだと思います。様々な問題が生じてきます。

地域の先生方、病院、施設との今まで以上の緊密な関係構築が必要です。これを実現するために、これからの地域医療を、地域を一体としてそれぞれが関連を持つ全体医療と考えていく必要があります。医療環境、社会構造の変遷に合わせた医療の構造的変化が求められています。

—— 育和会記念病院の基本理念を教えてください。

育和会記念病院の基本理念は「地域住民に信頼される最新の医療を提供し、住民の健康と疾病予防に貢献する」と「その人らしさ」を大切にケアサービスに徹する」です。地域住民に寄り添った、より良質な医療を目指しています。

医療法人育和会のシンボルマークは、あなたにとって「大事な人を大切にケアする」という motto を心から実践するという意味を込めてハートをシンボライズしています。また育和の和（W）Ⅱなごみをモチーフに、スタッフの心のこもったサービスによって患者さまが和やかな気持ちで治療に専念していただける病院でありたいという意志の表れでもあります。

これからも地域の皆さまのために、あくまでも人の尊厳を大切に、暖かい医療を実践するために、職員一同頑張つてまいります。



<https://hospital.ikuwakai.or.jp/>

育和会記念病院

◆吉村 隆喜 プロフィール

昭和51年 3月 大阪市立大学医学部卒業
4月 大阪市立大学附属病院 第一内科 入局
昭和56年 大阪市立大学医学部大学院 卒業
昭和60年 馬場記念病院 内科部長
平成4年 育和会記念病院 循環器内科部長
平成12年 育和会記念病院 副院長
令和6年 育和会記念病院 院長
循環器専門医
超音波専門医